富山市教育委員会会議録
令和３年１月定例会

１　日　　時　　令和３年１月２９日(金曜日)
　　午後　４時００分　開会
　　午後　４時４５分　閉会

２　場　　所　　議会棟８階　第３委員会室

３　出席委員　　教 育 長　　宮　口　克　志
　　委　　員　　若　林　啓　介
　　委　　員　　藤　井　久　丈
　　委　　員　　尾　畑　納　子
　　委　　員　　高　田　　健

４　説明のために出席した者

事務局長	牧　田　栄　一
事務局次長（総務・社会教育担当）	山　本　貴　俊
事務局次長（学校教育担当）	大久保　秀　俊
教育総務課長	石　黒　健　一
統合校整備等推進室長	豊　島　栄　治
学校施設課長	佐　伯　誠　司
学校教育課長	國　香　真紀子
学校保健課長	長　　康　博
生涯学習課長	金　井　　誠
科学博物館長	経　塚　達　也
郷土博物館長	坂　森　幹　浩

５　職務のため会議に出席した事務局職員

教育総務課主幹（課長代理）	中　山　武　史
教育総務課管理係長	余　川　　毅
教育総務課主任	廣　岡　洋　子

６　傍聴人数　　０人

７　付議案件

（１）報告事項

報告事項１　　「令和２年度富山市中学校３年生学力調査」結果の概要について

（２）その他

（１）　その他１　　富山市科学博物館特別展「科学捜査展　ＳＥＡＳＯＮ２」
（２）　その他２　　富山市郷土博物館企画展「新収蔵品展－家々に伝わった品々」

８　会議の要旨

【開会】

［教育長］　　開会を宣言する。
本日は、委員全員が出席しているため、会議は成立している。

【前回会議録について】

［教育長］　　１２月教育委員会定例会会議録について意見等を求める。
［各委員］　　（意見なし）
［教育長］　　意見なしのため、前回会議録は承認された。

【報告事項１】

［教育長］　　報告事項１について事務局から説明を求める。
［学校教育課長］　（報告事項１について説明）
［教育長］　　ただ今の件について、質問等あるか。
［藤井委員］　　最近特に、グラフ等からどう読みとったとかどう考察するかという力が弱いということが見えてきたのか。教科書で見る世代から ipad 等で画面で見る世代になってきたことが影響しているのかが非常に心配である。最近の傾向として、自分で分析する力が弱っているということなのか。

［学校教育課長］　最近そういった力が弱っているのかはわからないが、先ほどの説明で申し上げたように、共通テストにおいても、非連続型テキストと呼ばれるグラフや表など、それも複数のものを複合的に読み解いて問題を解いていったり、自分の考えを作っていったりするという力が非常に求められている。それは社会的な要請もあるし、大人になったら実際にインターネット上にある複数の資料等を使って自分の考えを主張していくことが多々出てくるという時代背景もあるのではないかと思う。そのため、弱っているのかどうかについては、今はわからない。

［尾畑委員］　今回の出題の主眼は、データサイエンス的な力、特に読解力を養うことを目的に作られたものだと思うが、これまで作ってきたものと比べて難易度が少し上がったのか。それとも、同じ人が中１の時に対して中３の時の正答率が低くなったということなのか。今回、大学共通テストでも深い思考や読みとる力が弱く、点数が悪かったという話である。そういう傾向が中学の段階でもあるということなのか。その学年の元々の力もあると思うが、要因等をもう少し整理してほしい。

［学校教育課長］　中１学力調査との比較ということだが、中１は小学校の時に学習したグラフや表の問題であり、中３はそれより当然難易度が高くなっている。そのため、中１の時の読解力と比べて下がっているか上がっているかというところまでは、正直分析はしていない。

［尾畑委員］　今の中１と中３を比べるのではなく、その学年が中１から中３になった時に、どれぐらいの力を育んできたかを見ることはできないのか。

［学校教育課長］　学校別には確かに分析をしているが、学校によって上がっていたり下がっていたりするため、全体としてどうなったかまでは分析していない。

［大久保事務局次長］　中１学力調査は、小学校から卒業したての子どもが受けることになるので、出題者はだいたい７０～７５％の正答率のレベルで出題をしている。しかし、中３学力調査は、中３の子ども達の学力を確かめるとともに、１月から始まる受験に向け、富山市の中学生が共通のテストを受ける数少ないチャンスの一つである。入試を基準にしているため、正答率をだいたい６０％のレベルのものにしている。そこで既に１０～１５％のレベルの違いがあるため、点数だけで比較することは非常に難しいし、あまり意味があることではないと思う。ただ一つ課題があるとすれば、無答率が小学生の時は

低かったのに、中学生になると高くなっていることである。これは、小学生の時はコツコツやっていたのに、中学生になると上下の差、学力格差が広がったという捉え方ができるのではないかと思う。

［藤井委員］　データサイエンス的な能力が求められるようになって、子ども達の指標をこの調査で確かめるのだと思うが、ひょっとするとそこでも格差が出るのではないかと思う。すごくできる子はできるし、できない子は全くできないのではないか。地道に一つ一つ物事を考えるということが、逆に ipad 等で瞬間的に答えを求めていくということに変わってきているので、地道に一つ一つ考えて結論まで達する能力について、答えがさっと出る子とすぐ諦めてしまう子と、ものすごく格差がある時代に入っているような気がする。学校や地域によっても全然できない子とかなりできる子との格差が出てくるのではないか。新しい時代はこういうことがさっとできないといけないのだと思うが、これからこの調査データをどう分析していくのか。

［大久保事務局次長］　学校間格差は確かにある。このデータは各学校に返すのだが、中３学力調査と中１学力調査とで同じ人間がどうなったかということは各学校でわかる。例えば、中１の時に数学がすごく良かったのに、中３になると数学が弱くなっていたとしたら、この学校の数学に課題があるということである。逆に、理科がグンと伸びていたとしたら、これはこの学校の理科の特色が生かされているということである。次の学年にこれを生かしていこうというような学校間の課題を提供するという意味でも、中１学力調査・中３学力調査は意味のあるものだと思っている。

［高田委員］　国語、社会、理科については比較的無答率が低いが、数学や英語は３人に１人、４人に１人答えられていない問題がいくつかある。数学や英語はいつも無答率が高い傾向にあるのか。また、極端に無答率が高い問題については、毎年同じような内容の問題なのか。

［学校教育課長］　自分で計算したり考えたりしないとなかなか解が出にくい複雑な問題になると、無回答が増えてくる。数学の無答率が高い問題は、手も足も出ないような問題だと思われる。国語や社会は、それが間違っているか合っているかどうかは別として、何らかの記号や言葉、単語を入れていける。子ども達にはとにかく無答しないように学校では指導しているため、自分の知識で解答を埋める努力はしている。しかし、どうしてもわからないという問題に対しては無答になってしまう。

［高田委員］　数学は公式がわからないとどうしようもないことはわかるが、英語もいくつか無答率が高い問題がある。英語も国語と同じで、何かしら埋めようと思えば書けそうな気もするが、それもできないような内容の問題なのか。

［学校教育課長］　英語の文脈や要旨がわかっていないと、たとえ日本語で答える問題であっても何を書けば良いか全くわからないという状態になる。

［高田委員］　英語に苦手意識を持っている生徒は多いのか。

［学校教育課長］　苦手意識を持っている生徒もいると思う。

［高田委員］　５教科の中で見るとどうなのか。

［大久保事務局次長］　この時期になると、数学や英語は全くわからなくなっている生徒がいる。高校受験は基本総合点で見ていくので、国語・社会・理科に力を入れ、数学や英語はもう捨てているというか、諦めている場合がある。１がわからなかったら２、３も続かないという教科が数学、英語であるため、数学や英語は、中１の段階が非常に大事な時期だと思う。

［高田委員］　社会に出ると英語よりも数学がとても大事だと感じる。せめて数学ぐらいは最後まで頑張るように指導をしてもらいたいと思う。

［若林委員］　学力調査を全く受けなかった生徒はどれくらいいるのか。

［学校教育課長］　全ての教科を全く受けなかった人数は調べていないが、在籍数から受検者数を見ると、いずれかの教科を受けなかったのは２３０人程である。コロナで今年だけ増えているのかと思ったが、過去３年を見ても例年２４０人程出ていた。

［若林委員］　全く受けなかったという要因が、たまたまその時に病気であったとか何か特別な理由がある場合なら良いが、最初から匙を投げてしまっている場合もあるのか。また、教科別のグラフについて、問題の難易度にもよると思うのだが、英語はどちらかというと点数の低い側にシフトしているため、やはり英語が苦手な生徒が多いように感じる。理科や社会などはいわゆる正規分布ではないため、どちらかというと二極化しているような傾向が見受けられる。

また、先ほど格差の問題も出ていたが、底辺の子の対応をどうしていくか。中学校の後の状態を追いかけて行かないとわからないが、いわゆる納税者となれるのか、社会保障に依存しなければいけないことになるのかが、今後の日本社会を考えると気になるところである。できる子は放っておいてもだいたいできるが、底辺の子をどうやって救済していくかが義務教育に課せられた大きな課題だと思うので、しっかり目配りをしていただきたいと思う。

［学校教育課長］　０点など非常に低い点数のお子さんは、中３になってこうなっているのではなく、小学校からの積み重ねで全く勉強がわからなくなっている状況ではないかと思う。そのため、教育長が中心となって小中連携に力を入れている。小学校から中学校に送り出す段階で基礎・基本としての小学校の学びを定着させた上で、中学校に送り出すということが非常に大切である。小中連携で、小学校の指導のどこに課題があるのか、あるいは、こういう子が中学校でこんな課題を持っているということを小・中互いに包み隠さず洗い出して対策を考えていかなければ、点数がなかなか取れない子ども達への対応は、中学校へ入ってからでは難しいのではないかと思う。

［尾畑委員］　受験の時のテクニックとして、わかるところだけ解いてわからないところには時間をかけないというような傾向が強くなったというのはあるのか。例えば塾等では限られた時間で要領良く解答するということを教えると思うが、学校ではそういうことを指導しているというわけではないのか。

［学校教育課長］　小学校においては、全国学力・学習状況調査の場合、問題文が非常に長く、丁寧に読み込んでいると問題を解く時間が無くなるため、まず先に何を問われているかを読んでから問題文を読みましょうとか、問題を解く技術というのは小学校の時から指導している。例えばわからなくても記号なら何でも良いから書きましょうとか、とにかく無答はやめましょうということを言っている。

［大久保事務局次長］　中３学力調査においては、受験としてこの問題が作られているため、まず鉛筆を持って名前と番号を書きなさい、その後問題を全部読み、できそうな問題に丸を付け、そこからやりなさい、ということを言っているため、それが無答率を高めていることにもつながっているのかもしれない。

［尾畑委員］　格差が現れやすいのがやはり数学や英語だと思う。富山市の子ども達にどうやってそういった力を付けていくのかを考えていくのが今後大事ではないか。特に読解力や深く考える力というのは、放っておけばどんどん悪くなると思うが、富山市が他市よりも力を入れることで、選ばれる都市になっていくのではないか。何よりも、社会に出た時に数学と英語の力というのはこれから極めて重要だと思うので、ぜひ研究をお願いしたい。

［教育長］　この結果を元に来年の指導につなげるということでは、この子ども達には間に合わないので、これでできなかった問題については、学校でしっかりと個別に対応しながら、自分の弱点はどこにあるの

かを見直しているところだと思う。併せて、学校全体の教科指導の問題点はどこにあるのかということも学校ごとに分析していく。
また、富山市では、数年前から読解力が大事だということで、読解力の視点を取り上げており、それまでは言語活動を大事にしてきた。こういう問題を出して、分析して学校に返すということは、こちらからのメッセージでもある。こういうことを大事に日頃の授業をしましょう、と学校へ投げかけている。
この間の大学の共通テストでも、随分とこれまでと違うということであった。読解力がないとしっかり対応できなかったり、資料を分析する力ということも求められていたりして、受験した生徒達の戸惑いの声もニュースで流れていたが、あのような段階になってから面食らうのではなく、今これからの時代を生きていく子供達にどういう力が必要なのかをしっかりと見据えた上で、日々の授業で大事にしなければならないことを考えていかなければならない。富山市の子ども達のためにも、今後も力を入れて進めて行きたいと思う。

【その他】

［教育長］　その他について事務局から説明を求める。
［科学博物館長］　（その他１について説明）
［郷土博物館長］　（その他２について説明）
［教育長］　ただ今の件について、質問等あるか。
［各委員］　質問等なし。

［教育長］　以上をもって本日の議事は終了したが、その他、質問等あるか。
［若林委員］　大雪の影響で臨時休校になった分は、挽回できるのか。
［学校教育課長］　大雪で４日間臨時休校になった。現在、授業時数の調査をかけているところであるが、やはり少し足りない学校も出てきている。ただ、多くの学校は３月までに授業時数を確保できる。学習内容については皆追い付いているが、決められた授業時数を確保できない学校がある。足りないところは朝にモジュールを入れたりして、授業時数を確保するよう努めることになる。万一、それでもどうしても足りない場合、実は４、５月の臨時休校の時点でかなり歪みが出てきて

いるため、足りない場合は、文科省も「致し方ない」という見解を出している。

［藤井委員］　最悪の場合、足りない時間数をレポートに代えることはできないのか。やはり時間が大事なのか。

［学校教育課長］　時間が決まっている。宿題で対応することはできない。

［教育長］　学校教育法施行規則で、年間授業時数というものが定められている。本当は単純に時間をクリアすれば良いということではなく、子ども達に知識等が定着しているかという質の問題も大事なのだが、最低限やらなければならない授業時数が定められている。

先ほど課長が話していたモジュールというのは、朝１５分、例えば漢字や計算の練習をしたという場合で、小学校であれば４５分の授業なので、１５分を３回やれば１つの授業時数を確保したことになる。中学校の場合は５０分なので、１５分、１５分、２０分などに分けてやれば１つの授業時数をクリアできる。あるいは放課後の時間や、場合によっては７時間目を設ける等しながら、最低限守らなければならないものは守っていく。ほぼ授業時数は確保できており、学習の進度の遅れについては、今のところ大丈夫だということで学校から確認している。

［高田委員］　学校によって授業時数にバラつきがあるのはなぜか。休みの日数などはどこも一緒だと思うのだが。

［学校教育課長］　コロナで臨時休校というのもあるが、おおむねどこも同じである。学年によっては、例えばインフルエンザで学年閉鎖等になる場合もあるので、多少バラつきがある。

［尾畑委員］　学校に来ていないと授業時数として認められないのか。例えばたくさんの宿題をやっても授業時数にならないのか。

［学校教育課長］　学校に居る時間を授業時数として数える。

［教育長］　国はまだリモートを授業時数としてカウントすることを認めていない。学校の格差については、細かいことだが、行事を削減したことが関係している。例えば、今までなら準備、実施、その後の評価や振り返りを含めて、一つの行事をするのに１０時間かけていたものを５時間とした。 その残りの５時間分を他の教科の授業時数に充てることができるようにしたが、何を何時間縮小するのかは学校の事情によって異なるため、授業時数にバラつきがあるのはそういったこともあると思う。それぞれの学校で、トータルとして授業時数が各教科確保できているかを算出しながら、見通しを持って計画的に授業を進めて行く、という対応になる。この後もまた大雪や

季節性のインフルエンザ等で閉鎖にならないことを願うしかないが、今のところは何とか運営できている状態である。

【閉会】

［教育長］　　閉会を宣言する。